令和３年度の事業報告

　　　　　　　　　特定非営利活動法人四街道プレーパークどんぐりの森

1. 事業の成果

プレーパーク事業については、新型コロナ感染症拡大のため、参加者数が、前年の7割だった令和 2 年度に比べて、令和 3 年度は 1.12 倍。9 月の緊急事態宣言を受けての休園となり、開催日数が全体で 8 日減っているにも関わらず参加 人数は増加しています。1 日あたりの平均来場者数は 52.5 人、令和 2 年の 1 日あたり 43.8 人に比べて、大きく増加しています。中でも、物井さとくらし公園は開催 1 回あたりの平均参加人数が100 人を超えており、ニーズが非常に高いことがわかります。その他の開催場所を見ても初参加の割合も多く、野外での遊び場を求める人が増えています。特に土曜日、平日の親子参加は 1 年を通して多く、遠方からの 参加者も多くいました。 一方、雨でも、休園期間中でもやってくるような小学生常連も定着しており、居場所としての役割も果たしています。初参加の割合は全体の 11.3%(昨年は 9%)760 人。子育て世代や子ども達の参加の機会を増やすことができました。市外からの参加者は全体の 7.8% 526 人で昨年とほぼ同様の割合となっています。
　子ども達の様子としては、学校でも家庭でもコロナ感染を気にしながら、給食も個食となり、おしゃべりも今まで通りにできない状況の中、野外の遊び場であるプレーパークでは、体を動かし、友達と喋り、日頃のストレスを発散している様でした。乳幼児親子のイベント「もりのわ」をきっかけに、どんぐりの森に遊びにくる親子も増え、定期的に通う親子同士、子ども同士の関係も育まれています。 中高生のフリースペースを開催していることもあり、中高生の参加も以前より増えました。生まれて数ヶ月の赤ちゃんをぎこちなくあやしたり、幼児や小学生を巻き込んで群れて遊ぶことも自然に行われ、0歳から 80 代まで、まさに異年齢が交わる場でもあります。野外であるため、日ごとに変化する自然と、異年齢の多様な人が集う場は、子ども達の好奇心や冒険心をくすぐり、木材や工具も持ち込み自分たちの基地を黙々と作る子達もいました。それを遠くや近くで眺める幼児たちとの関係もほほえましいものでした。小学校支援級に通いコミュニケーションが苦手な子も、土曜日開催にはいつも遊び来て、黙々と火を起こし、釘ナイフを作っていました。火を囲む中で、いつの間にか親以外の大人や、焚き火仲間も生まれ、緊張した表情も解れて来ました。どの子にとっても、一人一人の個性があるように、一人一人のプレーパークでの過ごし方があり、それを認め合う大人の関係も生まれていると感じた一年でした。これは学校でも家庭でも育みにくいことでもあり、だからこそ定期的な開催と、開催日を確保することで、一人でも多くの子どもたちの出会いがあることを切に願っています。夏の流しソーメン、冬の餅つきなどのイベントは、延期となりました。その中でも、子ども達の「学校での行事も減っていて、自分たちが企画して何かをしたい」という思いがプレイワーカーやスタッフを動かし、「森まつり」を 2 年ぶりに開催することができました。準備がなくてもできることは何か、開催することを知らせるにはどうしたらいいか、食べ物は今回我慢しよう、お金がない子も遊べるようにするにはどうしたらいいか、などなど、大人も子どもの声を 聴きながら、一緒に実施した「森まつり」でした。自分達の手で作り上げたお祭りでの子ども達は、 とても満足そうで、うまくできなくても、その結果も自分で引き受ける。遊びの中で培われた子ども達のエネルギーはとても大きく、参加者は 200人を超えました。
　 その他、地域のプレーパークのニーズもひき続きあり、千代田では自らグループを作り、出張プレーパークを実現しました。広報については、全校配布している広報紙「森だより」を編集発行しました。プレーワーカー研修や他団体との合同研修では、県内のプレーパーク同士の情報交換も行うことができ、有意義な研修を行うことができました。
　地域との連携としては、「四街道ウオークアドベンチャー」が行われました。ウォークアドベンチャーのイベントで繋がりができた大学生が、その後もプレーパークにも来たことや、地方から出てきてコロナ禍で繋がりがないまま過ごしてきた若者が地域と関わるきっかけになり、辛いことも話せる場になっていきました。２年ぶりに開催した森まつりは、プレイワーカーと子ども達がアイデアをだしあい、今できることを精一杯やろうと一緒につくりあげた祭りでした。いつでも大事にしたいのは、子どもも大人も安心して過ごせる場であること、そして、一人ひとりのチャレンジを応援する場であることです。そんな思いが一つになりました。
 若者支援事業も３年目を迎え、地域で若者が安心して過ごせる場所はどのような場なのかが実感でき、社会に発信することができました。

２．特定非営利活動に関わる事業

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 事業名 | 事業内容 | 実施予定日時 | 実施予定場所 | 従業者人数 | 受益対象者の範囲及び予定人数 |
| (1)冒険遊び場プレーパークの開催事業 | 常設プレーパークどんぐりの森の他、市内６か所へ出張プレーパークを開催 | 毎週月・木・金・土曜日他 | 市内７か所 | 10人 | 年間8,584人 |
| (2)里山の手入れ等環境保全事業 | 和良比どんぐりの森の下草刈り、やまなし月見の里整備等 | 通年 | 和良比どんぐりの森など | ５人 | 四街道市内および近隣市民 |
| (3)子どもの育ちに関する後援会・研修会などの企画・実施事業 | プレーワーカー研修会、救急対応、ロープワーク、SNS活用、遊び研究、事例検討など | 通年 | 市内 | 10人 | 約70人 |
| (4)会報の発行およびホームページ等による普及啓発事業 | 会報、ホームページやSNSにて活動内容の紹介や、子どもの育ちなどについての意識啓発 | 随時 | 市内外 | 5人 | 不特定多数 |
| (5)地域コミュニティー創出のための事業 | 遊び場を地域に開放して、コミュニティーの場になるようなイベントの開催や協力　森まつり2022 | 年１回 | 市内外 | 10人 | 四街道市および近隣の市民200人 |
| (6)その他この法人の目的を達成するために必要な事業 | ①栗山居場所事業②若者支援事業野外の若者の居場所づくり、室内の居場所ユーススペース作り、若者の参画事業 | 通年 | 市内外 | 15人 | 約1,000人 |